

新任看護職員 臨床研修修了式・本採用伝達式

看護科（研修教育担当看護師長） 齋藤真知子

今年度、新規採用された新人看護職員9名が、6か月間の臨床研修を修了しました。新人看護師の入職はここ数年、1、2名でしたが、今年度9名の入職は、4年ぶりとなります！修了式は10月4日（月曜日）に行われ、経験者採用の2名の方にも本採用伝達式に出席していただきました。

当センターでは、重症心身障害児者への理解に重点を置き、看護の基本的な知識・技術の習得を段階的に進めています。そのため、新人看護職員臨床研修を他病院より長い6か月とし、7期に分けて教育担当者と実地指導者が臨床研修指導計画書を立案し、指導しています。病棟では職員全員が新人看護師の指導に携わり支援しています。



新人看護師は、COVID-19の影響で、臨地実習が十分行えないまま入職しました。リアリティショックを少しでも軽減し、職場環境に慣れるために、5月より夜勤シャドーイングを新たに導入しました。利用者さんの夜間の様子や看護業務を知る機会となり、業務の幅に繋げることができました。現在は全員、夜勤の独り立ちも出来るようになりました。

新しい業務を覚えることや人間関係の構築などストレスのかかる日々であったと思います。感染対策での孤食や食事会の制限等により、先輩看護師とのコミュニケーションの機会が少ない中でも、病棟の看護師長、教育担当者、実地指導者、病棟スタッフの温かい支援のもと頑張っています。利用者さんとの関わりを重ねていくことで、個別性に合わせた看護を実践できるようになっています。これからも多重課題への対応や入所者の受け入れなど新たな課題が多々ありますが、同期のつながりを大切に頑張っていきたいと思います！！

今後もセンター職員みんなであたたかく見守り、支援していきます！！



みなさん、これからも頑張ってください！

〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

--*ホームページもご覧ください*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第527号 発行日 令和3年11月30日

第29回 地域療育講習会

医療福祉相談室 清水孝子

令和3年10月8日(金曜日)、第29回地域療育講習会「府中療育センターにおける緩和ケアチームの取り組み」を開催しました。

講習会は、「重症心身障害児者における緩和ケアの特殊性とその実際」「医師・緩和ケア認定看護師・コメディカルスタッフによるディスカッション形式の事例紹介 ①末期がんが見つかりQOLと疼痛緩和を目指した1か月 ②最後まで自分らしく生きた10か月」「自分らしく生きぬくために・・・私の人生は私のもの」の三部構成で行われました。

府中療育センターの緩和ケアチームは2016年11月より活動を開始し、メンバーは、医師（緩和ケア研修済医師を含む）、看護師（緩和ケア認定看護師を含む）、薬剤師、理学療法士、栄養士、心理士、保育士とMSWで構成されています。その目的は、「重症心身障害を持ち、それに伴うさまざまな問題に直面している利用者とその家族に対し、全人的苦痛（身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛およびスピリチュアルな苦痛）を和らげることを目的に、複数の専門職が互いに情報を共有し、連携しながら、包括的、全人的に援助する」ことです。

前回に引き続きオンラインでの開催となり、地域関係機関従事者67名の皆様に聴講いただきました。事後のアンケートでは「緩和ケアとACP(アドバンス・ケア・プランニング)について、事例をあげ、わかりやすく説明され大変参考になった。」「本人らしさをご家族や多職種で何度も話し合うことで、共通した思いで各職種ができることを行い全員で関わる連携が素晴らしい。」「看取りの事例を通し、ご本人のどう生きたいかという意思決定支援の大切さを学ぶことができた。」「今までご本人が好きだったことを、しっかりと家族や古くから関わる職員から引き継ぐことが大切だとわかった。」「緩和ケアチームの取り組みと各職種の考えを聞くことができ良かった。」などの感想をいただきました。

一方で、一部、ディスカッションの音声が聞き取りづらかったというご意見もあり、オンラインでの講習会が主流となる中、今後の課題と考えます。

現在、第30回地域療育講習会の準備も進めており、多くの方々の聴講をお待ちしております。



夏祭り

3D病棟 植田明香理

8月25日(水曜日)に3B、3D病棟合同でスーパーマリオのテーマで夏祭りを行いました。浴室に2病棟で協力して制作した「マリオのボール転がし」を設置しました。これは、傾斜のついた板の上に障害物としてキャラクターを立たせ、そこにボールを転がして高得点の箱(ゴール)を狙うゲームです。新型コロナウイルス感染対策のため、ゲームは30分ずつに区切って順番で楽しみました。



3B病棟はクレーンゲームも行いました。このゲームは、1人3個ボールを釣り、そのボールを坂を下って落ちていく箱に入れて落ちるスピードを楽しむものでした。3D病棟は、自分がマリオになった想定でビニール袋の敵キャラをハンマーで叩いて倒すゲームを行いました。どのゲームも大いに盛り上がり、笑顔あふれる楽しい時間を過ごすことができました。

総合防災訓練

庶務担当 杉浦裕之

当センターでは年2回、府中消防署職員立会いのもと総合防災訓練を行っており、10月26日(火曜日)、第二回総合防災訓練を実施しました。

防災訓練は病棟において行いました。今回は、地震発生の直後に火が出たという想定で、出火時の対応だけでなく、大きな地震が発生した場合の初動対応も確認することができました。消防署の方からは、「職員自身の身の安全を守れなければ、入所者の方の安全を守ることもできない。職員自身の安全確保も大切にしてほしい」との助言をいただきました。

防災教育では、府中市防災危機管理課のご協力をいただき、地震体験車による地震体験を実施しました。各部門の職員が地震体験車に乗り込み、震度7相当の揺れを体験しました。乗車後、想像以上の揺れに驚く職員が大半でした。実際の地震動に近い揺れを体験することで、大地震への心構えや対処法を考えるよい機会となりました。



秋の企画『そうだ！秋のキャンプへ行こう！』

生活療育支援科 松井かやの

11月25日(木曜日)、生活療育支援科行事・秋の企画『そうだ！秋のキャンプへ行こう！』を行いました。新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、利用者みなさんに秋の季節を感じていただけるように企画しました。

企画一つ目は、「キャンプの雰囲気を感じよう♪」です。夜のキャンプ場をイメージし、室内は暗く、ランタンやバーベキューの火の明かりが見えます。火は実際に燃えている様子の映像を使い、「パチパチ」と燃える音もあり、まるで本物の火を見ているようでした。作り物の大きなお肉を見て、甘く煮たサツマイモの香りを嗅いで、口をもぐもぐと動かしたり、木に隠れているヤマネのぬいぐるみを触り、思わず笑顔がこぼれた利用者の方もいました。それぞれキャンプの雰囲気を楽しんでいました。

企画二つ目は、「秋の味覚狩りゲーム♪」です。秋が旬の果物やきのこ、魚を収穫するゲームです。木になるりんごや柿を見ようと顔を上げたり、天井から風船にぶら下がるぶどうに手を伸ばしたりしていました。きのこ狩りはクレーンゲームのように釣り竿で釣り、なんと毒きのこがでたら当たり！！それぞれ収穫したもので当たりがでると、「どんぐりくじ」ができます。どんぐりが入ったペットボトルから丸々した「くぬぎ」がでると、さらにプレゼントがもらえました。どんぐりの音も楽しんでいました♪

企画三つ目は、「焼きりんごをお届け♪」です。今年は、各病棟に焼きりんごか生りんごかを事前に選んでもらい、当日病棟に届けました。焼きりんごは、「紅玉」をレンジで柔らかくしたもので、少しすっぱいですが、利用者の方々は味や香りを楽しんだようです。生りんごは、触ったり、香りをかいでももらいました。「りんご湯」やポップリにするアイデアもありました♪



短い時間ではありましたが、ゆったりとした秋の雰囲気を感じていただけたかと思います。皆さま、ご参加ありがとうございました！